

現金を扱わない事務 ～職員保護者双方の安心安全をめざして～

岩手支部：奥州市立衣川小学校
主事 澤内 里菜

【背景と目標】

<背景>

本校は、76名の児童(6学級、特支2クラス)と教職員15名(兼務職員除く)で活動している小学校です。私は、昨年度に新規採用として採用され現在学校事務職員2年目になります。

本校の学校教育目標としましては、①よく考える子ども(知)、②心の豊かな子ども(徳)、③たくましい子ども(体)の3つを掲げています。

また、「未来へ向け、しなやかに生き抜く子どもを支え伸ばす学校の創造」、「夢や目標をもち、創造性を培い、自らの個性や可能性を伸ばす児童の育成」を学校経営の基調としています。

<目標>

今回は学年会計の効率化に着目して、より現金を扱わない事務を目標としました。

昨年度着任した年から口座振替での学校集金を始めることになり、1年間上手く慣らしながら集金活動を行ってきました。しかし、せっかく現金を扱わず集金ができても、各教材社への支払いや各学年の積立業務等は全て現金で引き出しているのが現状でした。さらに、各銀行での入出金には硬貨の枚数に応じて手数料がかかってしまいます。そこで毎回のよう硬貨の枚数を数えて手数料が発生しないように調整をかけ、一日に何往復も郵便局へ出向くという非効率な仕事の仕方をしていました。

このことから、①現金を扱わず安全で効率的な事務仕事を実現するため、②職員・保護者にも安心していただける事務を行うためにこの目標を立てました。

【協働・取組】

<協働>

始めに、毎月定例で行われる共同実施を利用し、他校の事務の皆さんに本校の学校集金や支払い方法の現状をお伝えしました。他校では現金集金・口座振替での集金と様々でしたが、やはりどこの学校も手数料の問題で困っているのには変わりありませんでした。その中で、ゆうちょダイレクトを利用したデータでの送金の話が挙がり、最も手数料がかからず事務の効率化を図ることができると思い、本校でも実践を考えることにしました。

昨年度は新採用でということもあって、私一人では提案もしにくかったため、管理職にご相談をしようちょダイレクトの導入を進めることができました。相談する際にも私的な意見ではなく、共同事務室で話題になったことをお話しできたことで、より各校で困っているという現状をリアルに伝えることができ、共同実施の良さを改めて感じました。

<取組>

ゆうちょダイレクトでのデータ送金を行うにあたって、ハード型トークンというものを購入する必要がありました。これには1つ購入するのに825円かかり、8クラス分購入すると6,600円かかります。話し合いの結果、校内ではPTA会計から支出することに決まり、PTA役員会で保護者へ説明をしました。初めて説明をした日は、事務処理の話ということもあって、イメージし難く上手く伝えることができませんでしたが、回数を重ねて承諾をいただくことができました。

今年度(R5年度)から導入し、現在利用を進めています。私も校内の職員も初めてのことで、4・5月の職員会議や職員長会の際に話題にしたり、職員の支出・収入伺いの起票方法など、変更がある点を周知しています。また、トークンを使用してのデータ送金には手数料が全くかかるわけではなく、月5回の送金までが無料であり、6回目以降は手数料がかかる仕組みになっています。そのため、各学年の先生方にも周知し、私の方でも教材社ごとにまとめてお支払いをすることで、効率よく手数料のかからない事務を目指しています。



【成果と課題】

＜成果＞

今回の取り組みを達成度で表すと 60%です。

導入してまだ数か月しか経過していませんが、事務の仕事の効率化が圧倒的に図られたと感じています。郵便局を何往復もする労力が削られ、より事務仕事にかかる時間を確保できています。このことは、学校運営にもよい結果をもたらすと感じています。昨年度までは、人手が足りない中で事務が席を外すため、来客や電話対応など職員に任せてしまう場面もありましたが、導入後はそのようなことも少なく学校全体のゆとりも少しは確保できていると思います。

また、郵便局に出向く必要がなくなったことで、先生方が起票する際にも、払い戻し請求書等を記載する必要がなくなりました。先生方には慣れるまで不便をかけてしまうこともあります。作業の効率化は図られているため、学校全体で早くこの体制に慣れていけることを願っています。

反省点は、校内用の会計マニュアル(変更 ver)を作成していなかったことが挙げられます。導入したことに満足し、うちょうダイレクトについて調べることに重きを置いてしまったため、職員に対してのマニュアル等配布まで配慮が行き届いていませんでした。職員会議や朝会での周知では伝えきれないところも多く、放課後にたくさん質問がある日もありました。先生方との意思疎通を直接図ることで、コミュニケーションを普段からとるという面ではよかったのですが、新しい仕組みを導入するということはかえって先生方を困らせてしまうと感じました。これを回避するためにも、これからは何かアクションを起こす際には、目的だけでなく達成した後まで見通した計画を立てたいと思います。

今回の取り組みは、困っていることを恥ずかしがらず自分から発信することで、より良い方法を取り込むことができ、道が開けるということを身をもって実感できた貴重な経験となりました。

【教訓】

○困っていること、分からないことは遠慮せず周りの学校とコミュニケーションを図って解決するように努力する。

○何かを実行しようと目的・目標を立てたときは、達成した後起こりうることを想像し、見通しをもって対策を考える。

まだまだ経験年数は少ないですが、以上の2つをこれからの教訓として、様々な分野に活かしていきたいと思います。

今後は引き続き、学年会計の様子を見て、必要に応じたマニュアルの作成や先生方の業務時間短縮に向けた取り組みを考えていきたいです。そのためにも、普段の共同実施から他校の業務の様子を伺い、自校に活かせるものはないか考える機会にしていきたいです。

